

総合生活支援技術演習②

指導の視点

生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の復習を目指す。

修了時のポイント

- ①事例紹介から、利用者の置かれている環境、現在の状況や気持ち、家族の思いなど全体像をとらえる。
- ②各場面において「自立支援」「安全と安心」「尊厳の保持」の観点と介助の留意点をふまえて、適切な介護方法を管えることができる。
- ③事例における全体像を振り返り、今後の課題などを推測する。

	一般コース	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	3時間 (通信0分)	<p>講義 第3巻(P436～459)</p> <p>【事例3】デモ→実技 事例概要、日常生活の状況、今後の支援の方向性、介護サービスにおけるポイント 総合生活支援技術演習P439～446 (演習1)場面1～3まで、グループより2名で行ってもらう。 (演習2)グループワークP446～448 グループ内で進行役、記録係を置く。話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝える。</p> <p>【事例4】デモ→実技 事例概要、日常生活の状況、今後の支援の方向性、介護サービスにおけるポイント 総合生活支援技術演習P451～458 (演習1)場面1～3まで、グループより2名で行ってもらう。 (演習2)グループワークP459～461 グループ内で進行役、記録係を置く。話し合いの時間、発表の時間などタイムスケジュールを伝える。</p>

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

振り返り

指導の視点

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

修了時のポイント

介護職員としての基本的な姿勢はいうまでもなく、日常的に自身を高める課題を明確に意識しながら就業する姿勢が重要。

	一般コース	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	3時間 (通信0分)	1.振り返り <ul style="list-style-type: none"> ●研修を通して学んだこと ●今後継続して学ぶべきこと ●根拠に基づく介護についての要点 (利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等) 2.研修を通してテキスト①～③までの各項目のポイントを説明する。必要であれば実技も入れる。 3.修了テストについて 記述問題に関してポイントとしてマーカーを引かせる。
	1時間 (通信0分)	2.就業への備えと研修修了後における継続的な研修 <ul style="list-style-type: none"> ●継続的にまなぶべきこと ●研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(off-JT、OJT)を紹介

添削指導及び面接指導の方法

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

整容の介護

指導の視点

- サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
- 基本的な学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。

修了時のポイント

整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
		○整容の支援技術 講義(テキスト第3巻P166～171) ◦整容行動とは、洗面の意義・効果、つめの手入れ、化粧・ひげ剃り・整髪)
	3h (通信30分)	実技演習 デモ→実技 ◦洗面(顔の拭き方)

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

衣類着脱の介護

指導の視点

- サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
- 基本的な学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。

修了時のポイント

装うことの意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	30分	<p>講義 第3巻(P.151～166)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦身支度の意義と目的、身じたくの介護の基本 ◦衣類の役割、衣服を選ぶときの配慮事項、身体状況に合わせた衣服の選択、着脱の支援の基本と留意点
	2時間30分 (通信0分)	<p>○日常着の着替え デモ→実技 実技演習(要介護3 右片麻痺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ベッドを出し実技をする環境を整える ◦椅座位で行う日常着の着脱介助デモンストレーション(かぶりのもの) ◦グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え、手順書の作成を行う ◦各グループ発表:日常着の着替えの一連の流れを実際に行い、○○の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました等、発表を行う。 <p>※「衣類着脱」の習得度テストを行う</p> <p>○和式寝まきの交換 デモ→実技 実技演習(要介護5、右片麻痺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦和式ねまきデモンストレーション <p>○整容の支援技術 講義(テキスト第3巻P166～170)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦整容行動とは、洗面の意義・効果、つめの手入れ、化粧・ひげ剃り・整髪)
添削指導及び面接指導の方法等		
レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。		

体位・姿勢の介護

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

体位・姿勢変換の意味と関連する用具、体位・姿勢変換に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	30分	講義 第3巻(P.184～190・197～212) ◦利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ◦利用者の自然な動きの活用 ◦ボディメカニクスの活用:8原則 ボディメカニクスを活用することで双方に負担が少ないことを理解する ※「ボディメカニクス」の理解度評価
	120分 (通信0分)	実技演習 ◦ベッドを出し実技をする環境を整える(シーツの復習を含める) ◦体位の確認、仰臥位、側臥位、腹臥位、端座位 ◦安楽な体位の説明と実施(なぜ安楽な体位が必要なのか?) ※「体位変換」の習得度評価 ※まひがある場合の習得度評価
		◦水平移動デモンストレーションを行い受講生実施 ◦仰臥位⇒側臥位デモンストレーションを行い受講生実施 ◦上方移動デモンストレーションを行い受講生実施 ◦仰臥位⇒端座位デモンストレーションを行い受講生実施

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

移動の介護

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

移動の意味と関連する用具・機器さまざまな車いす、杖など基本的使用方法を概説でき、移動に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	30分	実技演習 第3巻(P.217～221)参照 ◦車椅子での移動デモンストレーション 段差の昇り・降り、狭い通路・坂道での留意点 ※「車いすの移動」の習得度評価 ◦グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え、手順書の作成を行う ◦各グループ発表：車椅子での移動の一連の流れを実際に行い、〇〇の理由でこのようにしました等、発表を行う。
	120分 (通信0分)	講義 第3巻(P.227～237) ・外出について、杖の種類・選定方法 実技演習 ◦歩行のデモンストレーション ◦手引き歩行、杖歩行2点歩行・3点歩行、階段の昇降(杖使用、手すり使用) ◦受講生二人一組で実技実施 ※「歩行介助・杖なし歩行」の習得度評価 ※「歩行介助・杖なし歩行階段昇降(片まひのある場合)」の習得度評価
添削指導及び面接指導の方法等 レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。		

移乗の介護

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

移乗の意味と関連する用具・機器さまざまな車いす、杖など基本的使用方法を概説でき、移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	30分	講義 第3巻(P.179～184・190～197) ◦移動・移乗に関する基礎知識 ◦移動・移乗に関する用具と活用方法
	120分 (通信0分)	講義 第3巻(P240～244) ◦車椅子の機能・種類・名称・扱い方・留意点説明復習 実技演習 第3巻(P221～227) ◦仰臥位⇄端座位⇄車椅子デモンストレーションを行い受講生実施 ◦グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え、手順書の作成を行う。 ◦各グループ発表:仰臥位～端座位～車椅子の一連の流れを実際に行い、〇〇の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました等、発表を行う。 ※「車いすの移乗(ベッドから車いす)」習得度評価

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

食事の介護

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	30分	<p>講義 第3巻(P.239～242、P259～276)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦食事に関する基礎知識 ◦食事のケアに対する介護者の意識、食事の介護がめざすこと ◦咀嚼・嚥下の仕組みと消化吸収の仕組み ◦食事環境の整備 ◦低栄養、脱水の弊害 ◦食事に関連した用具・食器の活用、介助方法 ◦食事形態とと身体の仕組み ◦食事と社会参加の留意点と支援 ◦誤嚥性肺炎の予防
	3時間30分 (通信30分)	<p>実技演習 ◦食事の基本姿勢(座位)をグループ内で考える。不適切な姿勢についても体験 教室にある、机、オーバーベッドテーブル、床頭台、椅子、車いす等を利用し高さの違い等を比較 ◦グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う。 ◦各グループ発表:〇〇の理由でこのようにしました。こんなことに気がきました等、口頭で発表を行う。 ※「食事の支援技術」習得度評価</p> <p>実技演習(要介護3 右片麻痺) ◦側臥位での食事介助 呑み込みの確認と体験を行ってから、食事介助の一連の流れを実施</p>

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

洗髪の介護

指導の視点

- サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
- 基本的な学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。

修了時のポイント

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント	
	1時間	講義 第3巻(P.308～313) ◦洗髪の介助 ◦ドライシャンプーの方法 ◦ケリーパット作成	
	2時間 (通信0分)	○洗髪デモンストレーション→ 実技 実技演習(要介護3、右片麻痺) ◦グループで清拭の実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う。基本、全員体験実施する ◦各グループ発表:清拭の一連の流れについて、○○の理由でこのようにしました。こんなことに気がきました等、口頭で発表する。	

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

排泄の介護①②

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行う。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	1時間	講義 第3巻(P329～356) ○排泄に関する基礎知識 ○さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ○爽快な排泄を阻害するところとからだのしくみと自立に向けた介護 ○トイレ介助の具体的方法
	5時間 (通信30分)	○便器・尿器の介助 ⇒テキスト③P353～355 デモ→実技 ※グループより一人体験してもらう。 ○ポータブルによる排泄の介護(半介助・右片マヒ)⇒テキストP345～347 デモ→実技 ・グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う ・各グループ発表:Pトイレの介助の〇〇の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました。等発表する。 ※「排泄の支援技術ーポータブルトイレ」の習得度テスト ○おむつ交換→ デモ→実技 (布オムツ使用の場合は、男性・女性両方のオムツ交換を行う。) ・紙おむつ(パット含む)のあて方デモンストレーション ・おむつ交換(紙～紙)、陰部洗浄デモンストレーション ・グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う ・各グループ発表:おむつ交換の一連の流れを実際に行い、〇〇の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました等、発表する。 ※「おむつ交換の支援技術」の習得度テスト

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

清拭・入浴の介護

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行う事ができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	1時間	<p>講義 第3巻(P.277～326)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦入浴・清潔保持の意味 ◦清潔保持に関わるからだのしくみ ◦様々な入浴用具の活用 ◦入浴・清潔保持を保つための方法 ◦入浴介護の手順とポイント ◦障害別、入浴環境と介護 ◦清拭の進め方 ◦整容(鼻・耳掃除のみ)
	3時間30分 (通信30分)	<p style="text-align: right;">デモ→実技</p> <p>○入浴介助(シャワー浴・浴槽) 実技演習(要介護3、右片麻痺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦グループで清拭の実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う。基本、全員体験実施する ◦各グループ発表:清拭の一連の流れについて、○○の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました等、口頭で発表する。 <p>※「入浴」の習得度評価</p> <hr/> <p>○清拭の介助 デモ→実技 実技演習(要介護3、右片麻痺) (湯の温度設定は受講生にまかせる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦グループで清拭の実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う。基本、全員体験実施する ◦各グループ発表:清拭の一連の流れについて、○○の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました等、口頭で発表する <p>※「清拭の支援技術」の習得度評価</p>

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

睡眠の介護・ベッドメイキング

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用語を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	1時間	<p>講義 第3巻(P.357～371) ◦睡眠に関する基礎知識、様々な睡眠環境と用具の活用方法、心地よい睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法</p>
	5時間 (通信30分)	<p>講義 第3巻(P.119～124) 寝具を整え方の原則、寝具の条件</p> <p>実技演習 ・ベッドを出す ・介護用ベッドの機能と使用する際の留意点。実際に高さ調節や背上げ機能を行い説明を行う(サイドレール、介助バー含む) ・シーツのたたみ方の説明とデモ(二人たたみ、一人たたみ) 二人たたみは観音開きで行う(テキスト通り) ・シーツの置く場所の説明(二人たたみの時と一人たたみの時の置く場所の違い)</p> <p>実技演習 ・オープンベッドデモンストレーション(ラバーシーツをひいて行う) 三角・四角の意味、シーツをひろげる際の留意点等、解説しながらデモを行う ・各ベッドに分かれ実施。グループ内で手持無沙汰になり何もしていない受講生をつくらないこと</p> <p>実技演習 ・臥床上シーツ交換デモンストレーション(講師は一人掛けで行う) ・臥床上シーツ交換実施(一人掛け、時間調整で二人掛けを追加して行っても可)</p>

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。

口腔の介護

指導の視点

- 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

修了時のポイント

口腔ケアの意味と口腔ケアに関連した用具を列挙でき、指示に基づいて介助を行う。

	一般	具体的な講義内容(進行方法)及びポイント
	30分	講義 第3巻(P.171～177) ◦口腔ケアの意義 ◦口腔の仕組みと働き ◦口腔ケアの方法
	1時間30分 (通信0分)	口腔ケアの実際 歯ブラシでの口腔ケア 物品:歯ブラシ グローブ 演習:2人1組になる ①唇の乾燥状態を確認 ②介護者役はグローブをして利用者役の口角から指を入れその脇から歯ブラシを入れる ③歯の外側を磨く時は口を開けずに磨くと磨きやすい ④前歯を磨く時は介護者の指で唇を押し上げて磨く ⑤磨く順序は一方通行で行う(磨き残しをしないため) 上右奥歯→上前歯→上左奥歯→下左奥歯→下前歯→下右奥歯 ◦グループで実技実施。留意点等をグループで話し合いながら安楽で安全なよりよい方法を考え手順書の作成を行う ◦各グループ発表:口腔ケアについて口頭で発表。〇〇の理由でこのようにしました。こんなことに気付きました等、発表を行う。 ※「口腔ケア」習得度評価 健康体操 ①深呼吸(腹式呼吸)鼻から息を吸って口からゆっくり吐く ②肩の上げ下げ・前まわし・後ろ回し ③首を左右に倒す・左右に回転・上下に顔を向ける ④口を大きく開け「アー」・口角を横に引き「イー」・唇を突き出し「ウー」 ⑤頬を膨らませる・頬を内側から吸う ⑥舌の出し入れ・左右の口角を舌で触る・舌の上下運動 ⑦パ・タ・カ・ラとリズムカルに発声する

添削指導及び面接指導の方法等

レポートの添削は担当講師が行うものとし、面接指導は受講者全員を対象として行うものとする。